

厚生労働大臣
加藤 勝信 様

2019年11月19日
新日本婦人の会
会長 米山 淳子

2020年度予算編成にあたって、 すべての子どもに格差なく、 質の高い保育を保障してください

私ども、国連NGO新日本婦人の会は、1962年の創立から、子どものしあわせのため、教育環境改善などに地域で草の根からとりくんできました。

私たちは1980年から毎年、「軍事費を削って、暮らし・福祉・教育の充実を」と、女性・国民の願いを反映した国の予算を求めて、「秋の行動」にとりくんでいます。

依然として都市部を中心とした待機児童や保育士不足の問題が解決しないなか、10月に幼児教育・保育の無償化がはじまりましたが、対象の拡大や副食費の実費徴収をめぐる問題など多くの課題を抱えています。また、保育士は専門的で責任の重い仕事であるにもかかわらず、賃金が全産業平均よりも10万円近く低いなど処遇が改善されないことも保育士不足に拍車をかけています。面積基準も70年近く改善されないままであることは、子どもや保護者の安心・安全を脅かす大きな原因です。

また、子どもたちが安心・安全な放課後を過ごすうえで、学童保育の「従うべき基準」が参酌化されたことは、質の低下につながり、非常に不安です。

すべての子どもたちに格差なく、等しく質の高い保育を保障するために以下、要請します。

- 1) 認可保育所の増設で待機児童を解消すること
- 1) 保育・幼児教育の「無償化」は0歳～2歳も対象にすること
- 1) 職員の待遇改善、保育の質の確保に十分な予算をつけること
- 1) 学童保育の増設・拡充と質の確保をすること